



九州地域における 大豆をめぐる事情

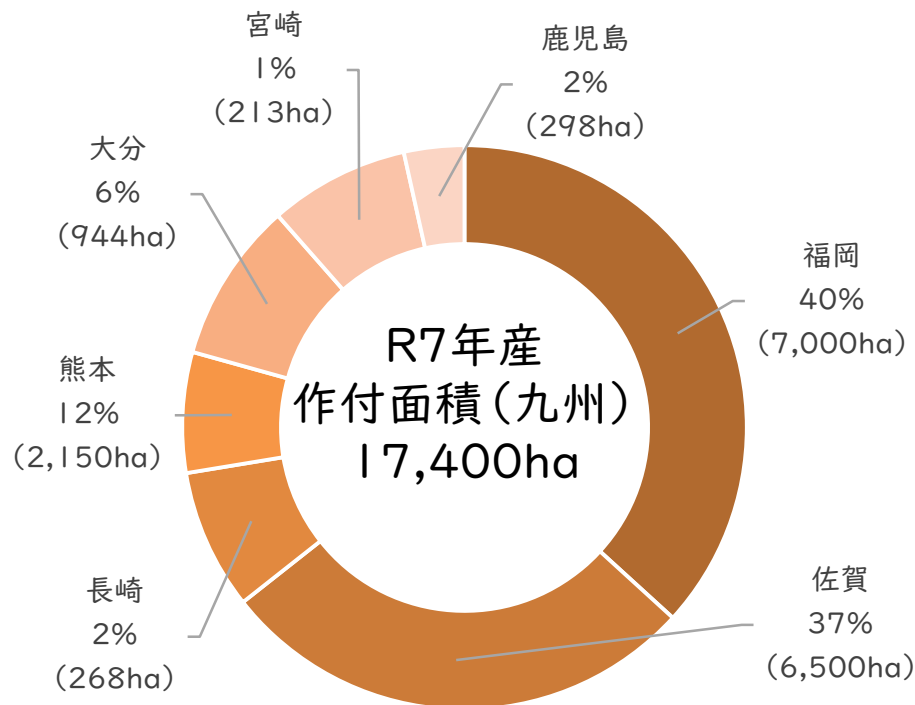
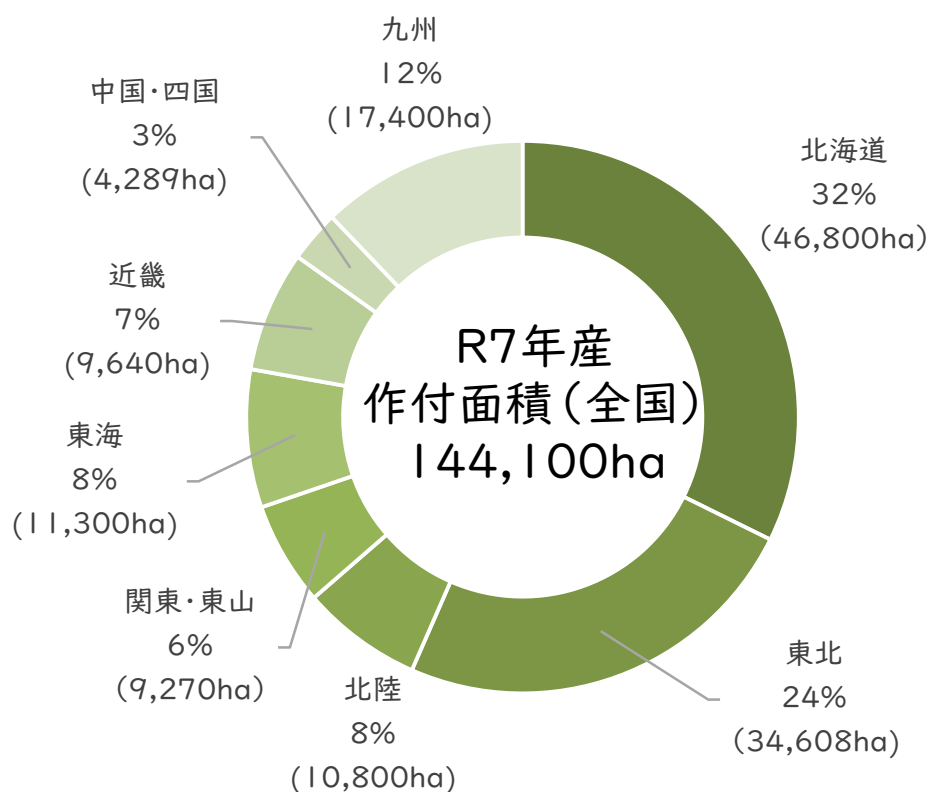
令和8年10月

九州農政局生産部生産振興課

I 作付面積

- 令和7年産の全国の作付面積は144,100ha、九州地域は17,400haとなり、全国に占める割合は約12%となった。
- 県別では福岡県が7,000haで最も多く、次いで佐賀県が6,500ha。この両県で九州地域の作付面積の約77%を占めている。

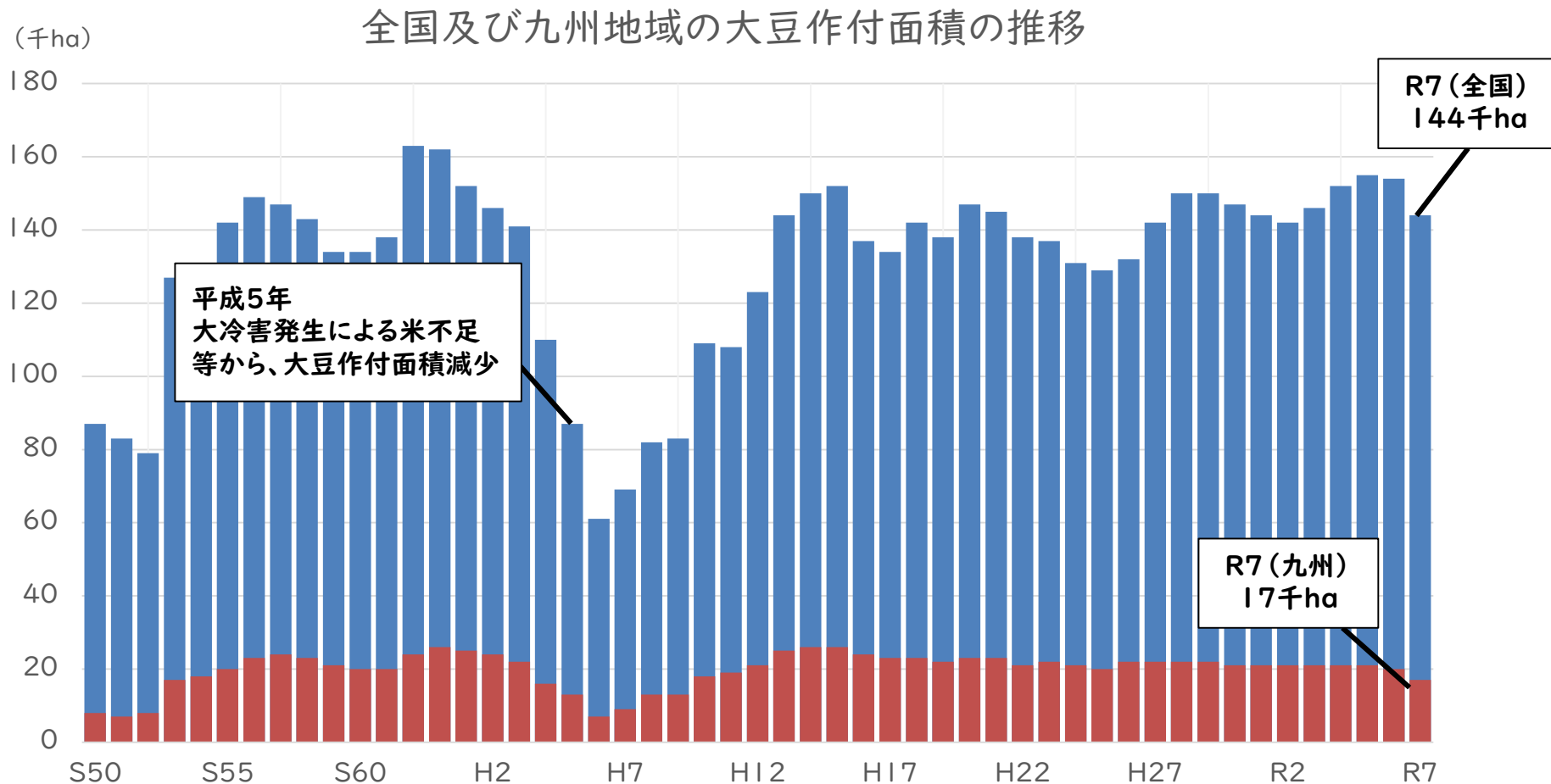
全国地域別及び九州各県別の大豆作付面積の割合（R7年産）



2 作付面積の推移

○ 大豆の作付面積は、昭和53年から開始された水田利用再編対策により、大豆の作付けが急拡大したが、平成5年の冷害により米の作況が著しい不良となり、米が不足したこと等から大豆の作付面積が一時的に減少。その後、米の需給状況等に応じ、作付面積は増減して

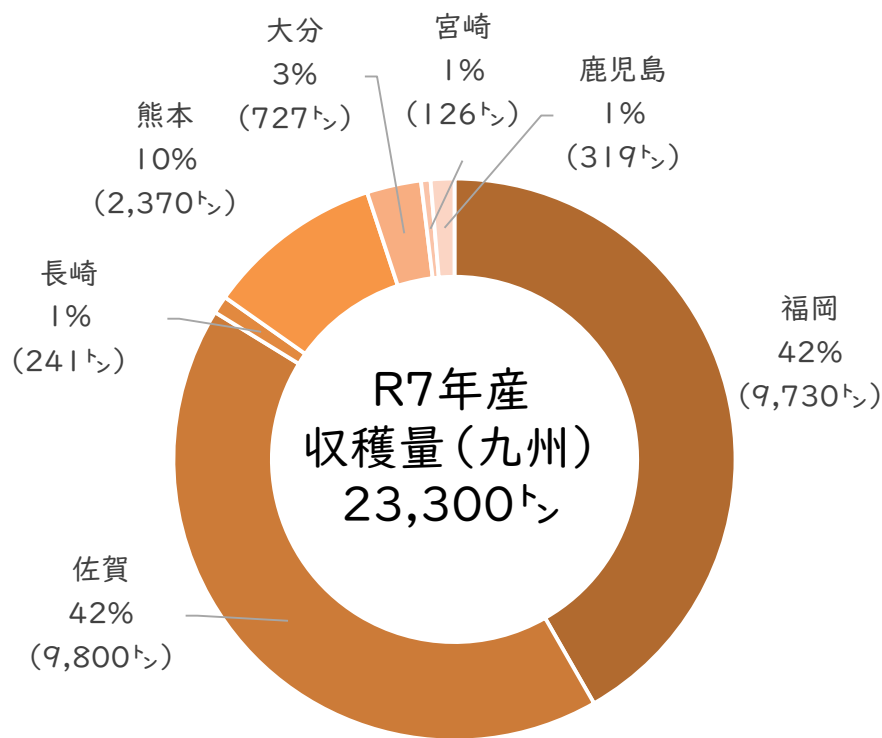
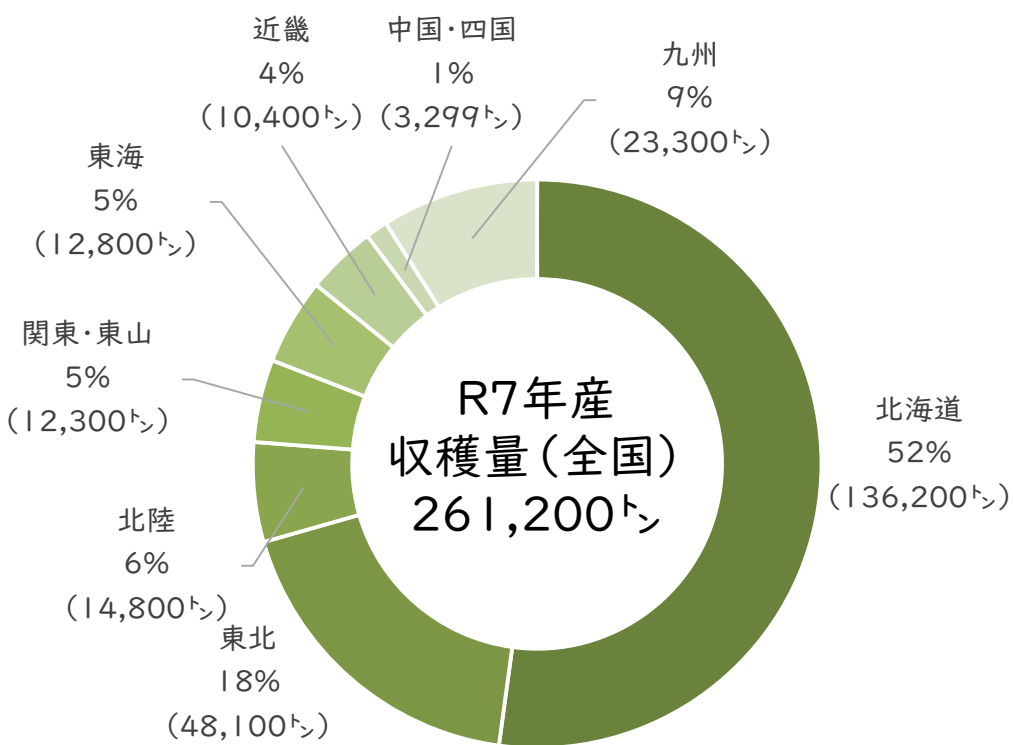
○ 令和7年産の作付面積は、全国では前年比6%減の144,100haとなり、九州地域では前年比14%減の17,400haとなった。



3 収穫量

- 令和7年産大豆の収穫量は、全国では前年比3%増の26.1万トン、九州地域では前年比6%増の2.3万トンとなった。
- 県別では、佐賀県が9,800トンと最も多く、次いで福岡県の9,730トンとなった。この両県で九州地域の収穫量の84%を占める。

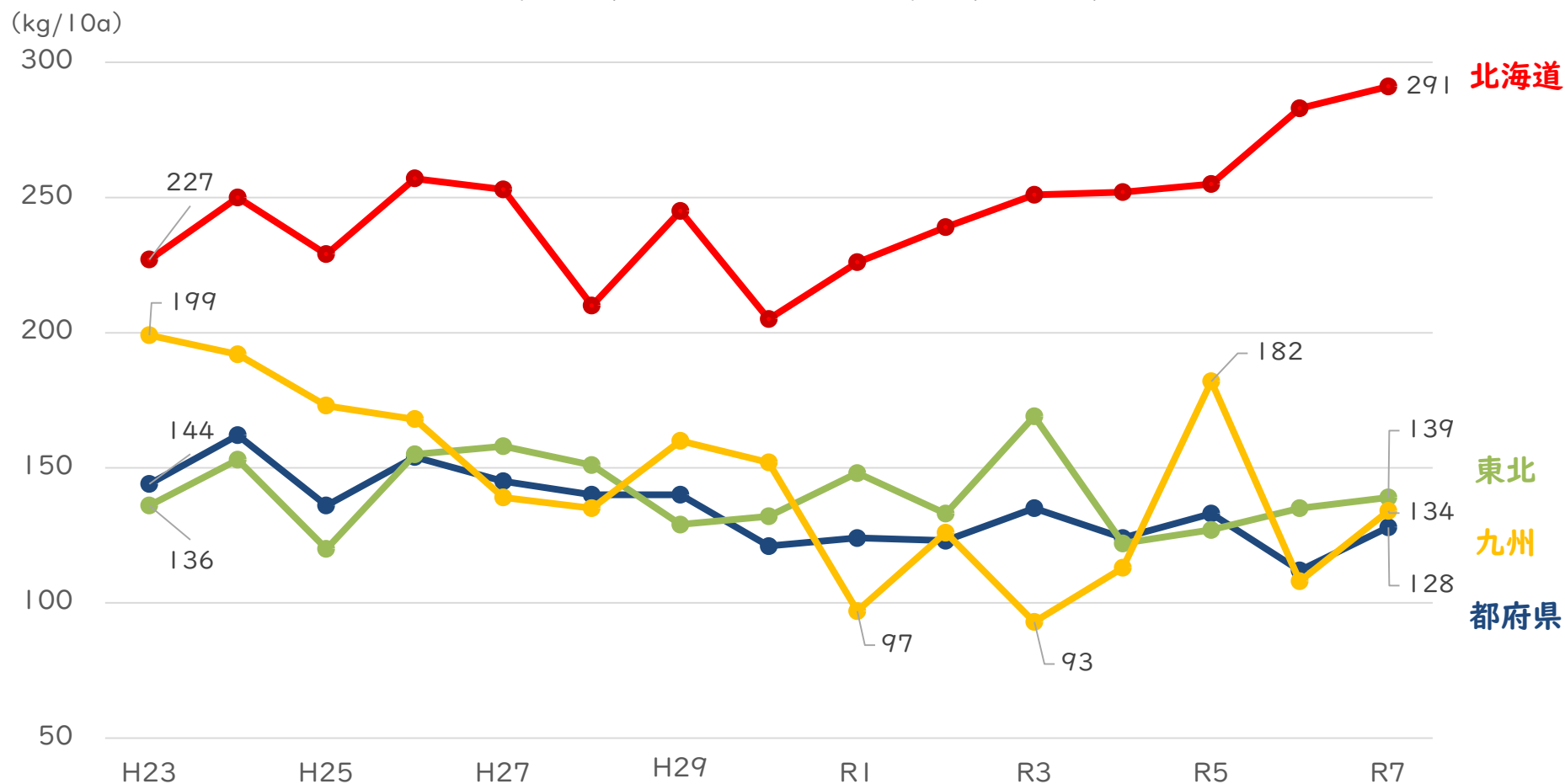
大豆の全国地域別及び九州各県別の収穫量の割合(R7年産)



4 全国各地域における単収の推移

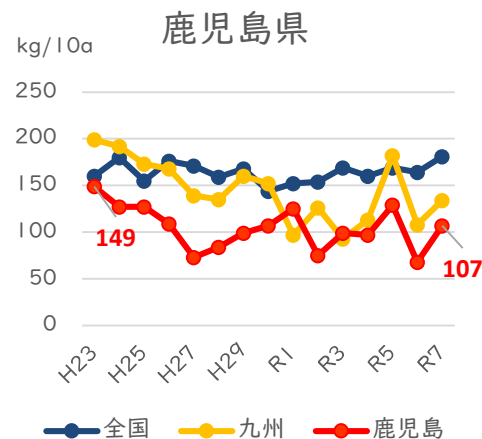
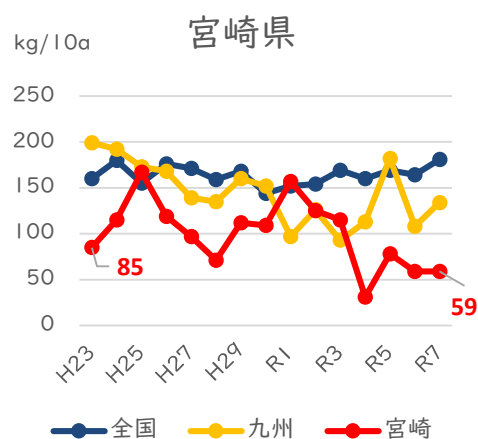
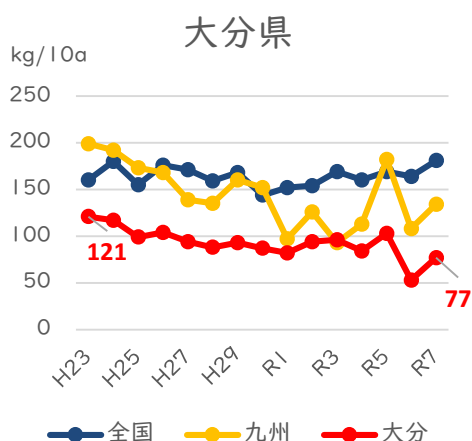
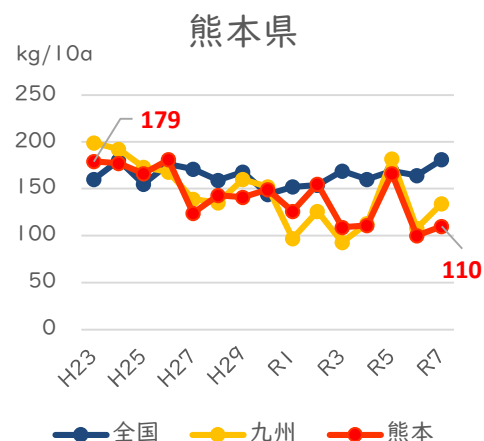
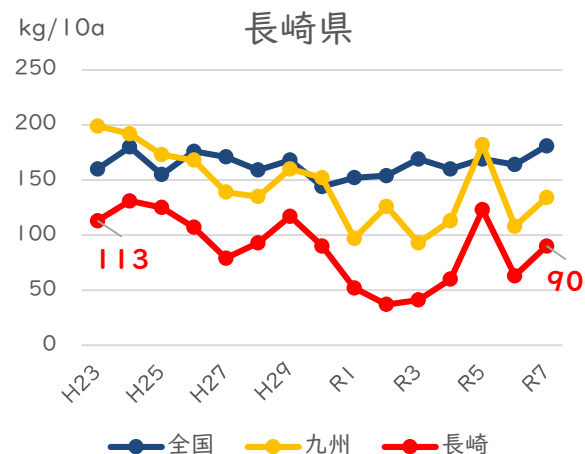
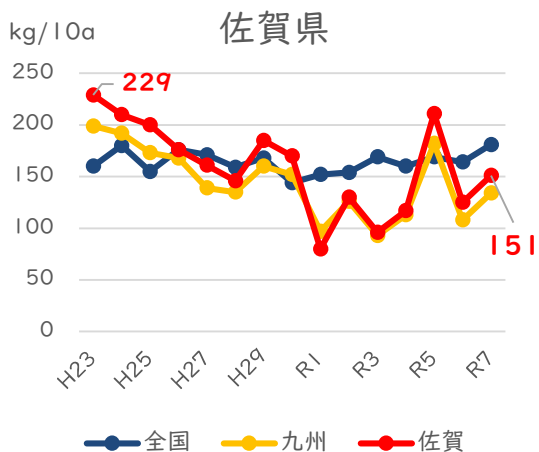
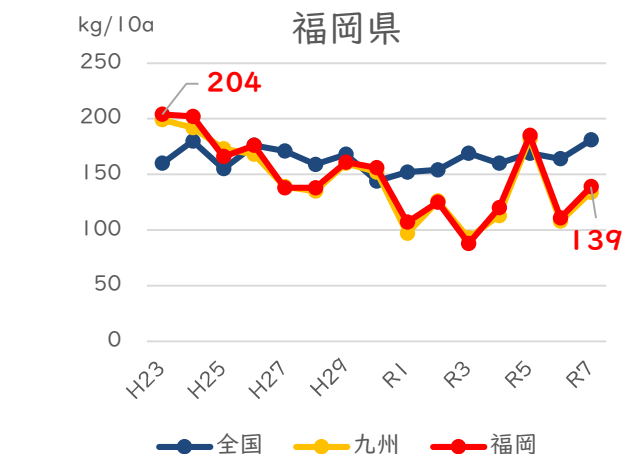
○ 令和7年産の単収は、各地域ともに前年産を上回るものの、天候等の影響により近年次変動が大きい状況。

全国、北海道、東北及び九州地域の単収の推移



5 九州各県における単収の推移

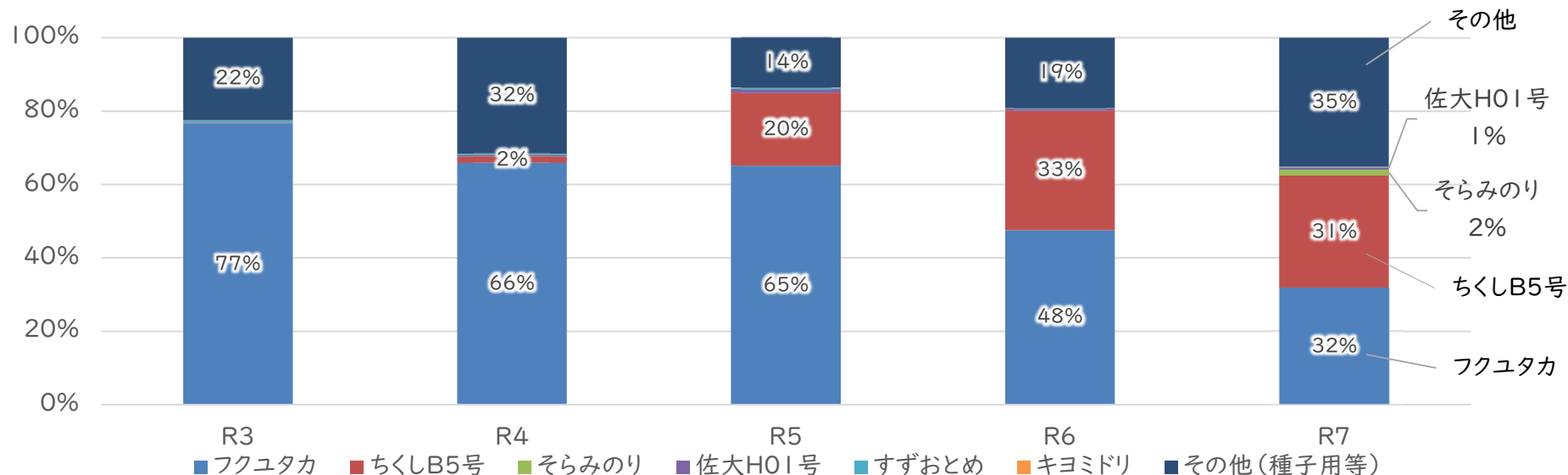
○ 近年の大豆の単収は、全国平均と比較して低い水準で推移しており、年次ごと、県ごとの差が大きい。



6 品種

○ 九州地域における品種別検査数量は、令和3年産では、「フクユタカ」が九州地域全品種の77%を占めていたが、近年では、「ちくしB5号」や「そらみのり」などの新品種の作付が増加している。

○ 九州地域における品種別検査数量の推移（種子大豆除く）



○ 県別品種別検査数量（令和7年産、種子大豆除く）

品種名	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	九州計
フクユタカ	—	5,611	167	1,209	0	57	166	7,211
ちくしB5号	6,506				494			7,001
そらみのり				346				346
佐大H01号		125						125
すずおとめ				18	40			58
キヨミドリ	1					1		2
その他（種子用等）	3,169	3,835	66	591	131	63	114	7,969
合計	9,676	9,572	233	2,164	665	121	280	22,712

資料：農産物検査成績（生産年翌年4月末日現在の検査成績）

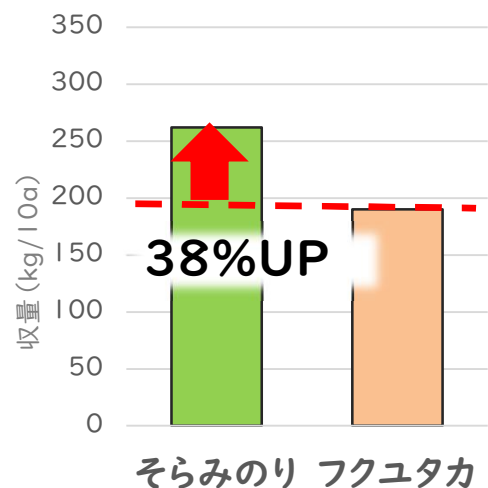
7-1 九州地域で普及が期待される新品種紹介

そらみのり

○ 農研機構九州沖縄農業研究センターが開発した新品種。収量が高い米国品種 (Santee) と、育成系統 (九州148号) を交配し、多収で豆腐に利用できる新品種として育成した。

そらみのりの主な特性

- 1) **難裂莢性**で「フクユタカ」よりも**3割以上多収**
- 2) **葉焼病抵抗性を有する**
- 3) 「フクユタカ」よりも1週間程度晩生
- 4) 主茎長が長いが、対倒伏性は「フクユタカ」と同等
- 5) **へその色が“黄”で外観品質に優れる**
- 6) 百粒重は、「フクユタカ」と同等かやや小さい
- 7) タンパク質含有率は「フクユタカ」と同等かやや低い



※収量は三重県、兵庫県、熊本県における5試験の平均



【用語解説】

・裂莢性(れっきょうせい)

成熟した莢がはじける性質を指します。裂莢性が“易”の品種は、成熟後に高温乾燥状態が続くと、自然にはじけやすく、莢内の種子がこぼれてしまうので、収穫ロスの原因になります。

・葉焼病(はやけびょう)

細菌によって引き起こされる病害で、ダイズの葉に感染すると斑点性の病斑が現れ、症状が激しくなると葉が早期に落ち、粒大や収量が減少するなどの影響が出ます。

・へそ

種子が莢とつながる部分。黄、緑、淡褐、暗褐、黒などに分類される。

・タンパク質含有率

タンパク質含有率が高いほど、豆腐にした時に豆腐が壊れるまでに要した力の強さ(豆腐の破断強度)が高くなる傾向があります。

7-2 九州地域で普及が期待される新品種紹介

フクユタカとそらみのりの外観比較



フクユタカ



そらみのり

○ ヘその色が「フクユタカ」の淡褐と異なり、黄で外観が良好。

○ 納豆に加工する場合、ヘその色が黄の品種が好まれるため、活用が期待される。

○ 豆腐加工適性試験の結果から、「そらみのり」は豆腐に利用できると評価された。

フクユタカとそらみのりの草本比較



フクユタカ

そらみのり

○ 「そらみのり」は「フクユタカ」よりも植物体が大きく、莢数が多い。

○ やや倒伏に弱いのが、根元からの倒伏が少ないのが特徴。

○ 最下着莢節位高が「フクユタカ」に比べて高いため、コンバインでの収穫も容易。

○ 青立ちの発生が少ない。

【用語解説】

・**最下着莢節位高**(さいかちやっきょうせついいこう)
子葉節(一番下の節)～最下位の莢が着生した節までの高さのこと。最下着莢節位が低すぎると、コンバインでの刈り取り位置を低くするため、コンバイン内に土が混入しやすくなります。コンバインに取り込まれた土は、子実の汚粒の発生原因になります。

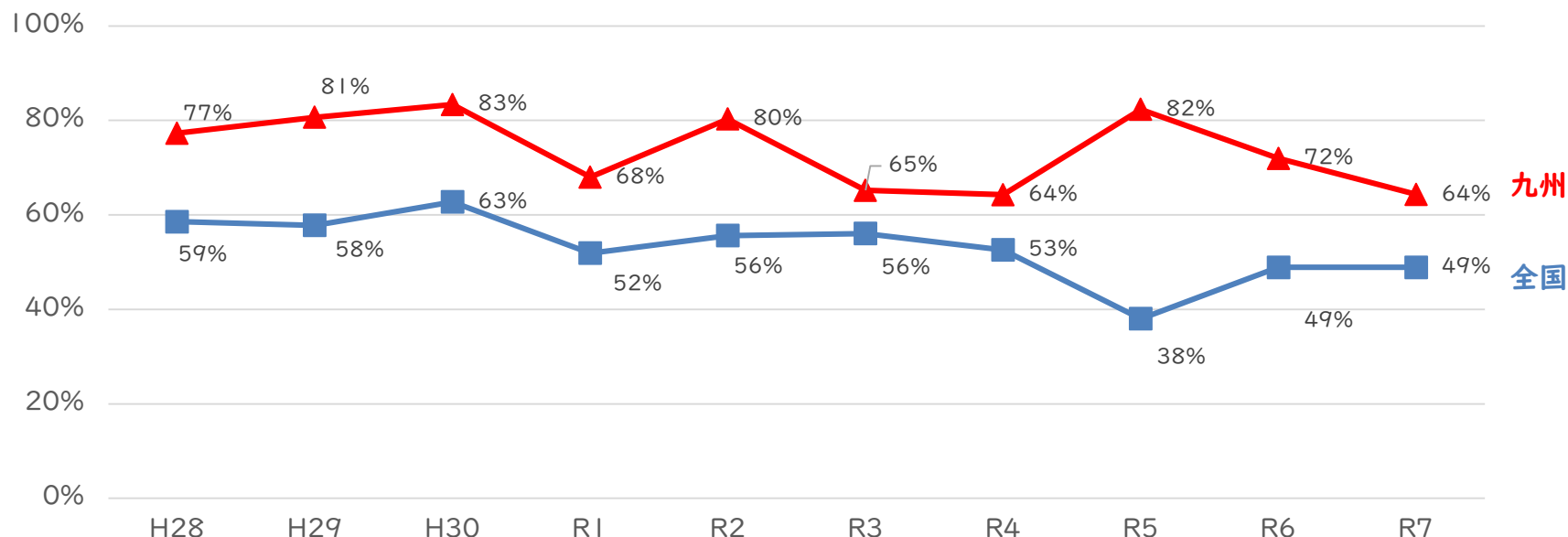
・青立ち

莢は茶色く成熟に達し、収穫適期を迎えているものの、茎葉が枯れずに青々としている状態のこと。莢先熟や成熟不整合などと呼ばれることもあります。青立ちが発生すると、子実の汚損の原因となり、検査等級の低下につながります。

8 等級検査

- 九州産大豆の上位等級（1等及び2等）比率は、全国平均値を上回っている。
- 検査における格下げの要因は、粒の充実不足による形質不良、汚損粒、しわ粒、カメムシによる吸害等である。

大豆の農産物検査における上位等級（1等及び2等）の割合



参考 大豆の品位

		(最高限度(%))	
	項目 等級	水分	被害粒等
普通大豆	1 等	15	15
	2 等		20
	3 等		30
特定加工用大豆			35

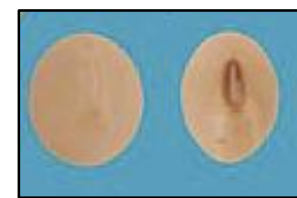
注) 特定加工用大豆は、豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等、大豆の原形をとどめない製品に使用する大豆に適用される規格です。



しわ粒



吸害粒



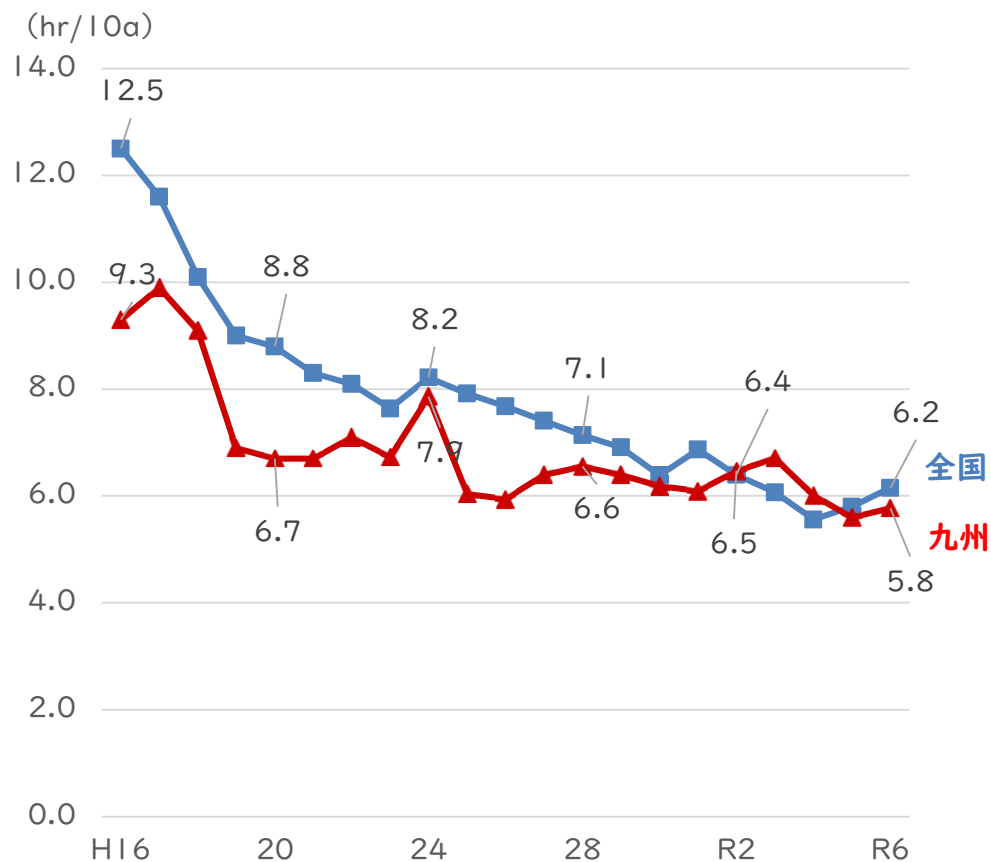
整粒 (健全粒) 未熟粒 (扁平粒)

資料：農産物検査成績（生産年翌年4月末日現在の検査成績）

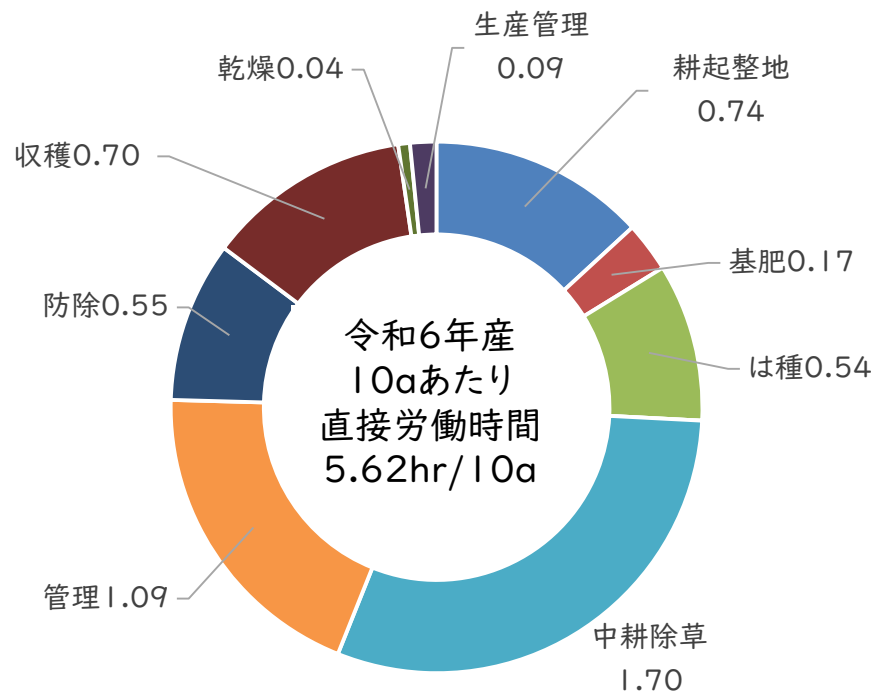
9 労働時間

- 10aあたりの労働時間は、長期的に減少傾向で推移している。
- 労働時間のうち、耕起整地・は種・中耕除草作業が半分以上を占めている。近年、不耕起は種や耕うん同時畝立て播種等の導入による労働時間の省力化が進められている。

○大豆の投下労働時間の推移



○九州大豆の作業別直接労働時間の内訳 (令和6年産)



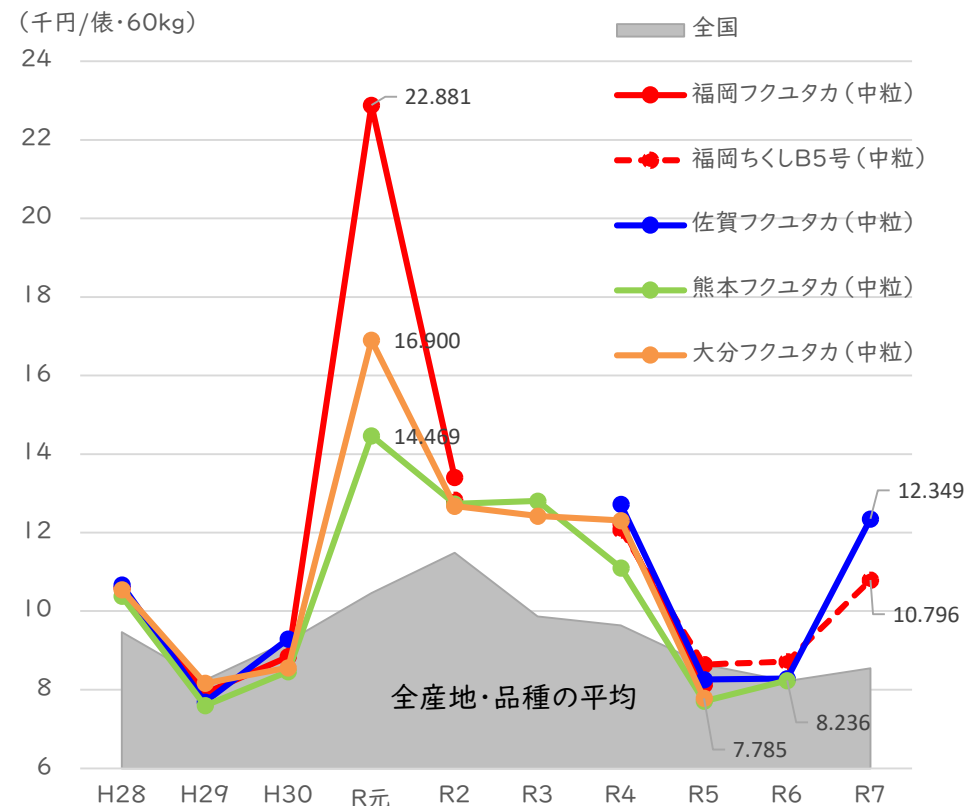
10 入札取引価格

- 収穫後入札取引価格は、気象条件による豊凶変動により、生産年ごとの価格変動が大きい。
- 令和7年産の九州の主要品種銘柄（普通大豆）の収穫後入札取引価格は全国平均を上回った。

全国主要銘柄（普通大豆）の落札価格の推移

		(円/俵・60kg)				
県	品種	3年産	4年産	5年産	6年産	7年産
全国	普通大豆平均	9,864	9,638	8,645	8,219	8,543
北海道	大粒 とよまさり	10,809	9,936	8,742	8,160	8,090
青森	大粒 おおすず	9,009	—	8,997	8,409	8,313
秋田	大粒 リュウホウ	9,068	8,956	—	8,263	8,220
栃木	大粒 里のほほえみ	9,338	8,941	8,686	8,260	8,593
新潟	大粒 里のほほえみ	9,565	9,165	9,063	8,168	8,110
愛知	大粒 フクユタカ	11,946	11,941	7,744	8,084	9,842
滋賀	大粒 ことゆたか	9,630	9,182	8,555	8,830	8,894
福岡	大粒 フクユタカ	—	13,160	8,937	9,390 大粒（ちくしB5号）	10,796 中粒（ちくしB5号）
佐賀	大粒 フクユタカ	—	13,865	8,744	8,869	12,349 中粒
長崎	大粒 フクユタカ	—	—	—	—	—
熊本	大粒 フクユタカ	13,344	12,818	8,140	8,236	—
大分	大粒 フクユタカ	13,172	11,852	8,416	—	10,883 中粒（ちくしB5号）
宮崎	大粒 フクユタカ	—	—	—	—	—
鹿児島	大粒 フクユタカ	—	—	—	—	—

※緑枠は中粒



注：価格（円）は60kg当たりの包装代を含み、消費税等は含まない。
資料：いずれも日本特産農産物協会入札結果

Ⅰ 九州地域の「水田収益力強化ビジョン」(大豆部分 抜粋)

○ 各県で策定された令和7年度水田収益力強化ビジョンによると、令和8年度の九州地域の作付目標面積は20,510haであり、前年度より3,137ha(18%)の増加となっている。

県名	R7 作付面積	R8 作付面積 (目標面積)	増減率	令和7年度 水田収益力強化ビジョン
				取組方針
福岡県	7,000	8,600	23%	主食用米の転換作物として作付され、実需者ニーズも高いことから、本県水田農業における重要な品目である。 産地交付金を活用して生産性の高い品種(ちくしB5号)への切り替えを行うことで、実需者への安定供給を図る。 また、作付面積の拡大を図るとともに、適期作業や団地化、排水対策の徹底による湿害回避、土づくり等の取組により、収量の安定、向上を目指す。
佐賀県	6,500	7,400	14%	単収や農業所得向上のため、これまで取り組んできた適期播種や排水対策、雑草対策などの基本技術をより一層徹底するとともに、部分浅耕播種技術などの播種後の干ばつ・湿害に強い栽培技術の普及や、新品種の導入、難防除雑草(ホオズキ、アサガオ等)の体系処理防除対策、集落営農法人等の組織の効率的な運営体制の構築に対する支援などを行う。 また、より効率的な生産体制を構築するため、地域の担い手への農地集積、高性能機械の導入・共同利用、稲わら・麦わらや堆肥等の有機物資源の有効活用による地力向上なども積極的に推進する。 さらに、販売面においては、実需者ニーズに対応した販売体制の整備を進めながら、契約栽培を主とした需要の安定確保の取組を強化する。
長崎県	268	262	-2%	大豆については、播種の遅れ、排水不良等の課題により、単収が安定していない。産地交付金を活用し、300A 技術等の導入を推進するとともに、排水対策や雑草対策といった基本的な管理を徹底することで、作付拡大と生産性・品質の向上を図る。
熊本県	2,150	2,406	12%	認定農業者や地域営農組織などの担い手への農地集積を推進し、団地化やブロックローテーションによる生産性の向上と安定生産を推進します。
大分県	944	1,371	45%	県内実需者からは、消費者ニーズへの対応(安心・安全)や特色ある商品づくり(高付加価値)のため、県産大豆の供給量増加が求められていることから、実需者ニーズに応じた品種面積計画を策定し、産地ごとに作付を誘導しながら生産拡大を図る。 大豆新品種「ちくしB5号」については、産地交付金的大豆新品種作付加算を活用し従来品種からの転換を進める。 栽培適地への作付を推進しつつ、排水性を向上させる地下灌漑システム(FOEAS)等の基盤整備事業の活用を推進する。その中で圃場の団地化、輪作体系の確立および圃場の地力向上、排水対策等基本技術の徹底により単収向上と品質の高位平準化を目指す。
宮崎県	213	234	10%	国内産の需要が高く、機械化体系が確立していることから、契約栽培等を中心とした安定生産を推進し、排水対策等の生産性向上の取組を推進する。また主食用米や新規需要米、加工用米等と組み合わせた二毛作を推進する。
鹿児島県	298	237	-20%	適地適作を基本に、地域段階における産地交付金を活用し、ブロックローテーションなど団地化を図るとともに、排水対策など生産性の向上を図る取組を推進し、実需者ニーズに対応した生産を推進する。
合計	17,373	20,510	18%	

※R7作付面積は作物統計調査より

参考 第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会 九州地域優良事例

全国豆類経営改善共励会は、JA全中及び日本農業新聞が主催し、優れた豆類生産経営者や生産組織を表彰する全国規模の共励会です。

昭和47年度から毎年開催されており、収量・品質の向上、生産コストの低減、経営規模の拡大、実需者との連携など、先進的な取組を総合的に評価します。

都道府県、ブロック、全国の各段階で審査が行われ、優秀な経営体には農林水産大臣賞などが授与されます。

第54回共励会では、全国から138点(大豆家族経営の部77点、大豆集団の部61点)の出品があり、九州ブロックからは、農事組合法人今井ぎおん営農組合(福岡県)が農林水産省農産局長賞を、株式会社河野農産(大分県)が全国農業協同組合中央会会長賞を受賞され、優れた経営事例が高く評価されました。



第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会 全国表彰式の様子

参考 第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会 九州地域優良事例

農林水産省 農産局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 集団の部

外部雇用導入により経営のV字回復を実現

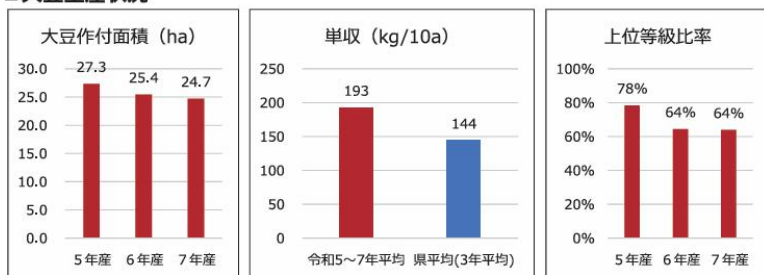
農事組合法人 今井ぎおん営農組合

福岡県行橋市

経営のタイプ	法人
農地面積(令和7年度)	57.3 ha
大豆作付面積(令和7年度)	24.7 ha
栽培品種(○奨励品種)	◎ちくしB5号



■大豆生産状況



■技術の特色

圃場データを管理し、圃場特性に合わせた栽植密度の調整や地力増進の為に堆肥散布を実施。また、大粒比率の高い新品種「ちくしB5号」の導入、精密な病害虫防除、除草剤を組み合わせた体系防除による雑草対策で高収量・高品質化を実現。さらに、大区画化とスマート農機導入、2交代制の作業体系で省力化と効率化を両立。

■経営の特色

平成20年に法人を設立。農地中間管理事業を活用した農地の団地化を図っており、大豆は20年以上、25ha程度の面積で栽培している。営農の継続性確保のため地域内オペレーターのほか、農外から40歳の若手を常時雇用職員(主任)として雇っている。農作業は主任を中心に計画的・効率的に進み、基本的に忠実かつ丁寧である。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

地元の中学生を対象に田植えや稲刈り体験を実施することに加え、国産大豆栽培の重要性についても解説。また、耕作放棄地の発生させないよう、農地の受け皿となっている。このような地域での取組が発展し、生命保険会社や産業医大、行橋市が実施する農業を通じた健康づくりプロジェクトにも参画している。



土壌分析結果に基づく堆肥散布



汚損防止に配慮した収穫の様子

全国農業協同組合中央会 会長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

技術で地域農業をリードする経営体

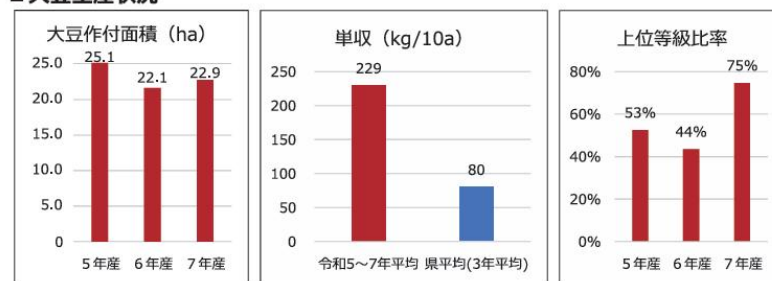
株式会社 河野農産

大分県国東市

経営のタイプ	法人
農地面積(令和7年度)	67.5 ha
大豆作付面積(令和7年度)	22.9 ha
栽培品種(○奨励品種)	◎ちくしB5号



■大豆生産状況



■技術の特色

有機質たい肥投入で地力維持を図り、コンボでの額縁明渠施工や管理機での圃場内排水溝の設置など排水対策を徹底。倒伏防止と雑草防除には中耕培土を深く行うことで対応し、病害虫防除にはこまめな圃場巡回による適期防除を実施。ドローン防除導入や各作業用の専用トラクター配置により作業効率を高め、省力化を進めている。

■経営の特色

昭和52年から続く父親の経営を令和5年に法人化し昭久氏が継承。令和7年は水稲35ha、麦67ha、大豆23ha、スナップエンドウ24aを作付。県女性経営士の妻のみ氏は経理のほか圃場管理システム導入を進めるなど経営を支える。「収益は従業員に還元」をモットーに、栽培管理による安定多収と自前での乾燥・調製等のコスト削減努力により収益を確保している。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

県奨励の「ちくしB5号」へ全面転換し、実需が求める高品質大豆をJAへ全量出荷。中山間部の条件不利農地が多いが、畦畔の草刈等圃場周辺の環境整備をきちんと行い収量も確保しているため、地域の信頼は厚く農地集積が可能としている。また、県内外の生産者に対する視察受入等により、生産者の技術並びに生産意欲向上を牽引している。



ドローン防除



圃場機間近の大豆

参考 第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会 九州地域優良事例

九州農政局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

排水対策と乾燥対策で気候変動に左右されない大豆づくり

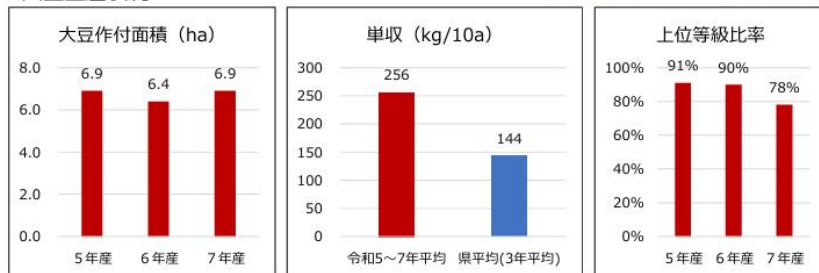
飯田 克也

福岡県朝倉市

経営のタイプ	個人
農地面積 (令和7年度)	15.4 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	6.9 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	◎ちくしB5号



■大豆生産状況



■技術の特色

令和5年に、県育成の大豆新品種「ちくしB5号」に切り替え、適期作業を徹底することで、高品質の大豆生産を図っている。特に近年は、播種後、乾燥が続くことが多く、気象条件に対応するため、地域に先駆けて乾燥害対策にも力を入れた生産者の模範となっている。

■経営の特色

水稲・麦類・大豆を作付けする土地利用型農業経営を行っており、耕地利用率は全国平均(90.4%)や福岡県平均(114.7%)を大きく上回る200%を達成している。管内でもいち早く営農管理システムを導入し、データに基づいた栽培管理を行っている。

■販売・消費拡大・地域貢献の特色

高品質な大豆を栽培し、全量JAに出荷している。JA普通作部会の部会長のほか、農事組合長、カンントリーエレベーター運営委員、水利委員、青色申告会役員等を務めている。また、JAや普及指導センターの実証ほや展示ほに積極的に協力する等、地域の水田農業の発展に尽力している。



収穫作業の様子



生育中の大豆

九州農政局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 家族経営の部

家族経営の強化による大豆生産向上

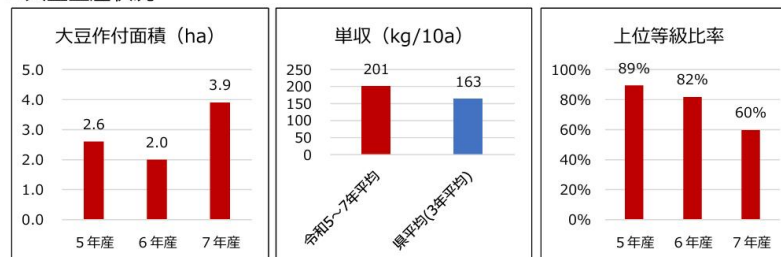
田中 昭弘

佐賀県杵島郡白石町

経営のタイプ	個人
農地面積 (令和7年度)	16.4 ha
大豆作付面積 (令和7年度)	3.9 ha
栽培品種 (◎奨励品種)	フクユタカ



■大豆生産状況



■技術の特色

排水対策や土づくり、適期播種や適期防除などを徹底し、省力化栽培と収量・品質向上を実現している。また、収穫作業の委託や家族間での作業計画の共有により、レンコンとの複合経営における効率的な低コスト・低労力経営を実践している。

■経営の特色

大豆を経営の重要作物として位置付け、異常高温下でも安定した収量・品質を確保している。家族労働主体での経営を基本とし、レンコン中心から米・麦・大豆を主体とした機械化体系へ移行したことで、規模拡大と持続的な農業経営の実現を進めている。また、地域農家、若手農家との交友を大切に、地域からの信頼も厚い。

■今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

今後は米麦大豆を中心に規模拡大と経営基盤の強化を進めるとともに、新品種導入や大豆作付拡大を視野に安定収量を確保する。また、自動操舵導入による省力化を進め、家族労働を基本とした持続的な経営の継続を目指す。



マルチローターによる防除



耕起と播種作業

九州農政局長賞

第54回(令和7年度)全国豆類経営改善共励会

大豆 集団の部

共同作業による良質な大豆生産

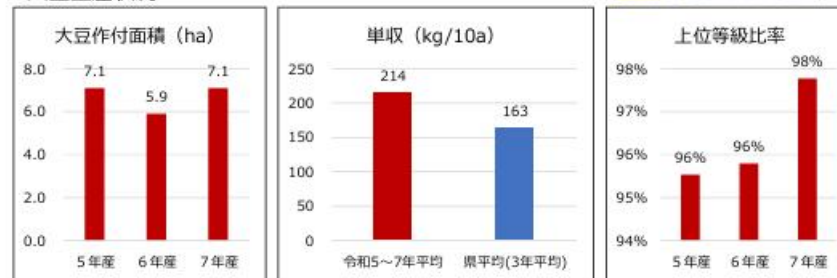
片白営農組合

佐賀県武雄市橘町



経営のタイプ	法人
農地面積(令和7年度)	24.8 ha
大豆作付面積(令和7年度)	7.1 ha
栽培品種(◎奨励品種)	◎フクユタカ

■大豆生産状況



■技術的特色

播種前には排水暗渠や額線明渠を整備し、播種日の統一を図っている。また、組作業による効率的な作業体制を構築するとともに、2条播種から3条播種へ移行することで労力軽減を実現し、安定した収量の確保につなげている。

■経営的特色

水稻・大豆・麦を基幹作物として栽培し、減収要因となる連作障害の防止に向けて土づくりを重視するとともに、構成員の畜産農家との耕畜連携に取り組んでいる。また、水稻や大豆の播種作業を共同で実施し、女性も参加するなど、地域農業の維持と安定した品質・収量の確保に努める模範的な集落営農組織である。

■今後の作付計画、経営・栽培技術上の方向性

今後も、地域計画に基づくブロックローテーションや共同作業による生産性の効率化を図るとともに、3条播種面積の拡大による労力の軽減や品種切替による安定収量の確保に努める。



圃場写真①



圃場写真②